

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

建設整備事業

事務事業の段階

計画 事業化 事業 管理

政策名	5 安全な港		24年度事業・個別施策評価結果 (今後の取組みの方向性)			責任者	港営部 港湾管理事務所長
基本施策名	08 施設の安全性・信頼性の向上		事務事業	成果	コスト	連絡先 052-398-0503 連携課 港営課、維持管理担当、施設工事組 当、施設事務所	事業 期間 昭和36年度～継続
個別施策名	23 港湾施設の機能を維持・強化する		継続	維持	維持		
事務事業名	05 上屋の管理運営					根拠 法令等	名古屋港管理組合港 湾施設条例
目的	上屋を適切に管理し、効率的な使用ができるようにします。					実施 義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
概要	上屋の使用許可事務、及び施設の点検を実施し、不良箇所があれば補修を実施します。					関連 シート	
平成25年度の実施予定	①使用許可申請書の受理、②利用調整、③現場確認を実施し、施設の使用状況等を入力、④利用者からの要望により、施設損傷等の不具合が生じた場合は緊急度に応じた補修、⑤上屋修繕計画の推進を行います。						

2 DO(実施)

平成25年度に実施した内容・結果	①使用許可申請書の受理、②利用調整、③現場確認を実施し、施設の使用状況等を入力、④利用者からの要望により、施設損傷等の不具合が生じた場合は緊急度に応じた補修、⑤上屋修繕計画の推進を行います。							
コスト(年度)	単位	21(実績)	22(実績)	23(実績)	24(実績)	25(実績)	合計	備考(款項目節等)
事業費計	千円	140,511	42,953	35,025	36,830	42,066	297,385	(款項目節) 単位:千円 上屋修繕費
一般会計	千円	140,511	42,953	35,025	36,830	42,066	297,385	(算出計算式)
事業会計	千円							
その他	千円							
人員費計	千円	27,462	26,291	25,860	27,020	22,776	129,409	(その他)
正規職員	人	3.20	3.10	3.00	3.10	2.60		平成20年度及び平成21年度の事業費の増大は1件当りの単価が大きな修繕があったためです。
嘱託職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
合計	千円	167,973	69,244	60,885	63,850	64,842	426,794	

3 CHECK(検証)

活動・成果 指標	年度	21	22	23	24	25	中間目標	25	備考(指標の算定方法など)
使用率(%)	目標	90.0	90.0	90.0	90.0	100.0		90.0	上屋の使用料÷有効面積金額 (1年間を通じて上屋すべてが利用された場合の金額)
	実績	76.0	67.0	80.0	79.1	65.9			
	達成率(%)	84.4	74.4	88.9	87.9	60.4			
	達成率(%)	-	-	-	-	-			
修繕計画の進捗率(%)	目標	44.4	33.0	66.7	100	100	(累計)	100	実施済修繕件数÷修繕計画による修繕件数 平成22年度より上屋外壁調査を修繕計画に追加しています。
	実績	11.1	53.3	60.0	66.7	66.6			
	達成率(%)	25.0	161.5	90.0	66.7	66.6			
	達成率(%)	11.1	53.3	60.0	66.7	66.6			
平成25年度までを総括した必要性・有効性・効率性の確認		判断理由 (課題の抽出)						その他特記事項	
必要性	どうしても必要な事業か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>		上屋は、本組合の主要なる収入源であり、今後とも貨物量の増大が思案されるので、港運業者へのサービスとして本組合の適正なる管理は責務と考慮される。					
	利用者のニーズは高いか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>							
	本組合が関与する必要があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>							
有効性	目的や目標の水準は妥当か?	<input type="checkbox"/> ○ × <input checked="" type="checkbox"/>		施設利用率の目標は、100%自体無理があるものと思われます。このため目標は達成できませんでした。利用者の需要を考慮し、利用率を向上させる努力をしました。					
	目標を達成したか?	<input type="checkbox"/> ○ × <input checked="" type="checkbox"/>							
	個別施策へ貢献したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>							
効率性	最小のコストで成果をあげているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>		広範囲に及ぶ施設を、少人数にて管理運営しています。在来岸壁を多数抱える特殊性から効率的なる運営主体となっております。					
	受益者に適正に負担させているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>							
	効率的な運営主体となっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × <input type="checkbox"/>							
当方の上屋は、その殆どが高度経済成長期に建設されたものであり、相当なる老朽化対策が課題となる。									

4 ACTION(取組)

個別施策評価結果による今後の取組みの方向性	事務事業	成果	コスト	判断理由
	継続・統合	➡	➡	・事故防止などの安全対策上不可欠であるため。 ・在来施設(上屋・荷さばき地)の維持管理に係る事業として統合。
個別施策評価結果を踏まえた来年度以降の取組み				
在来施設の維持管理に係る事業として、上屋、荷さばき地を統合し、適切で効率的な在来施設の維持管理に取り組んでいきます。				